

---

# 理想

天窪 雪路

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

理想

### 【コード】

N8661P

### 【作者名】

天窪 雪路

### 【あらすじ】

どれほど崇高な理想を思い描こうとも、それを体現できなければ机上の空論というもの。

「どれほど崇高な理想を思い描こうとも、それを体現できなければ机上の空論というもの。彼はそういう意味では頭は少々悪いが、彼なりの理想を体現して見せている。だから部下は彼を信じ、彼についていくのだ。もっとも、頭の悪い彼がいつまでも組織の長を務め続ける訳にはいかない。もう少し、もう少しの間、彼には頑張ってもらわなければならぬ」

「貴方は自らの主を裏切るのか！」

「裏切るのではない！もとよりその計画なのだよ！我々のような気高い民族が、アウズンヴラのような低能な主に仕え続ける訳がなからう！あの男は我々よりも単純だから使えるだけだ。多くの民衆の心を捉えるには、分かりやすい思考とそれを分かりやすく演説できる力が必要なのだ。そういう意味でのみ、彼は主にふさわしいというわけだ」

「何ということだ……。貴方にとって仲間とはその程度のものなのか?!」

「何度も言わせるな！あれは我々の主でもなければ仲間などではない。人心を制御するための駒に過ぎんだ。世の中はそのような必要悪で成り立っている。貴殿も同じだろう？さもなければ、ロキを失うこともなかったであろう。あれほどの男を失うことも」

「どういう意味だ！」

「分からぬか！貴殿は部隊を二つに分け、ヨトウンヘイム城を挟み

撃ちにする算段だったのであるう？しかし、結果を見よ！貴殿は貴殿の言う理想のために一個小隊を犠牲にしたのだ！有能な戦士ロキ殿を隠れ蓑に使い、自らの進軍のための囿としたのであるう！貴殿の戦術が生んだ犠牲を必要悪と呼ばずに何と呼ぶのか！」

ユミルはそう言つとこちらを一瞥し、その後は何も続けずに出て行った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8661p/>

---

理想

2011年1月13日05時32分発行